別紙様式１（高）

# 令和８年度　学校経営計画表

## １　学校の現況

| 学校番号 | 39 | 学校名 | 県立鹿島高等学校 | 課程 | 全日制 | 学校長名 | 河田　実 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教頭名 | 青木　重雄 | | | | | 事務（室）長名 | 田山　みどり |

| 教職員数 | 教諭 | 43 | 養護教諭 | 2 | 常勤講師 | 5 | 非常勤講師 | 3 | 実習教諭、実習講師、実習助手 | 1 | 事務職員 | 6 | 技術職員等 | 4 | 計 | 64 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 生徒数 | | １年 | | ２年 | | ３年 | | ４年 | | 合計 | | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | クラス数 |
| | 小学科 | | | | | | | | | | | |
| | 普通科 | 141 | 99 | 128 | 110 | 110 | 125 | | | 379 | 334 | 18 |

## ２　目指す学校像

・生徒たちが時代の大きな変化をチャンスと捉え、予測困難な未来に対応する考え方と力を身に付けていく学校
・自律した生徒たちによる多彩な個性と自由な発想に満ちた活力ある学校

## ３　三つの方針（スクール・ポリシー）

| | |
|---|---|
| 育成を目指す資質・能力に関する方針<br>（グラデュエーション・ポリシー） | (1)予測困難な未来をポジティブに楽しく生きるための「最重要６項目」を身に付ける<br>１主体性　２チャレンジ精神　３柔軟性<br>４国際的な視野　５コミュニケーション力　６情報活用力<br>(2)社会と地域の課題に対する感性を磨き、シビックプライドを醸成する |
| 教育課程編制及び実施に関する方針<br>（カリキュラム・ポリシー） | (1)全教科の授業を通じ、主体的な学びの姿勢の定着と、思考力・判断力・表現力の向上を図る<br>(2)進学重視型単位制の特徴を活かし、個に応じた学習指導及び希望進路の実現につなげる<br>(3)理数教育・国際教育・キャリア教育の充実に向けた本校独自の取組みを継続的に進化させる |
| 入学者の受入れに関する方針<br>（アドミッション・ポリシー） | (1)自分の将来を他人任せにすることなく、自らの意思で切り拓いていこうとする生徒<br>(2)学校行事や部活動などに主体的に取り組み、他者を尊重し、集団に協力できる生徒<br>(3)向上心があり、自分で決めた高い目標の達成に向け、工夫しながら努力を継続できる生徒 |

４　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|---|---|---|
| 教務 | 進学重視型単位制移行、附属中の併設に伴い進学希望者が増加したことに伴い、生徒間の学力、学習意欲に差がみられるようになっている。今後も大学進学希望者が増えていくことが予測できるため、多様化する学習環境への対応が望まれる。 | 一斉授業と考査による評価のみに頼るのではなく、評価方法、ICT 機器を活用しながら「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 |
| 進路支援 | 令和７年度の国公立合格者が 28 名、GMARCH の合格者は９名、日東駒専などの私立大学合格者も前年度と比べ大幅に増加している。年次や教科間の連携で、効果的な方法を共有・研究するなど、学校全体の取り組みをすることでさらなる飛躍が期待できる。就職希望の生徒は減少傾向にあるが、地元企業、公務員への就職希望者は一定数存在する多様な進路への対応が今後も必要である。 | 進学重視型単位制移行に伴い、これまで以上に大学進学支援の充実に努める。<br>キャリア教育の充実を図り、組織的･計画的及び継続的な進路指導を通して、生徒の進路実現を推進する。 |
| 生徒支援 | 概ね規範意識及び基本的生活習慣が確立されており、欠席・遅刻・早退は少ない。頭髪の色や形においては大半が基準内におさまっているが、制服の正しい着用について、反している生徒の増加傾向がうかがえる。<br>登下校時の自転車の運転マナーについては、地域からの苦情、交通事故などが発生している。令和８年度４月からの自転車における罰則の強化を踏まえて、生徒への啓発を図る必要がある。また、ヘルメットの着用率向上に向けた取り組みとして PTA の協力に加え地域の協力を求めていくことが必要であると考える。<br>いじめ防止基本方針の定期的な見直しを行い、予防的かかわりに重点を置きながらいじめの根絶を目指している。生徒同士のＳＮＳトラブルが後を絶たない現状があるため、情報リテラシーについて外部講師を招き、講話を開くなどの対応を行っていく。 | 生徒の規範意識確立を図るための啓発を、全校集会等で継続的に行う必要がある。また、個に応じた指導体勢について職員間で共通理解を図る。<br>道路交通法順守とヘルメット着用の徹底、危機意識の向上を図り、重大事故防止に努める。また、加害者になり得ることを想定し、損害賠償保険加入を推奨する必要がある。<br>生徒個人が利用する SNS トラブルの対応について、教員の共通理解をさらに進める必要がある。 |
| 特別活動 | 生徒会が主体的に企画・運営し、生徒が自ら積極的に参加し盛況に実施されている。ホームルーム活動は、時間的な制約から、計画どおりの運営に困難もある。行事・ホームルームの際に活動記録、自己の振り返りとしてキャリアパスポートを利用している。ボランティア活動には３年次を中心に多くの生徒が積極的に参加しており、地域から高い評価を得ている。 | 学校行事を生徒主体で企画･運営できるように、これまで以上に支援する必要がある。また、自主的な学校行事、外部ボランティア活動への参加意欲を高める指導の工夫も必要である。 |
| 探究支援 | 総合的な探究の時間において、分野横断的に教員が伴走し、主体的かつ協働的な学びの活動時間を拡大して、探究活動を推進してきた。産官学の連携により、地域とのつながりに加えて、DX ハイスクールの指定を受けながら、幅広い手段とスキ | 今後探究活動にフォーカスするにあたって、外部人材との連携、ICT スキルの向上、効果的な評価方法など、 |

別紙様式１（高）

| | | |
|---|---|---|
| | ルを使って、課題解決とものづくりに注力した学習活動を展開することができた。 | 教員側のスキルアップも急務である。 |
| 渉外 | ＰＴＡ活動は活発であるが、ＰＴＡ活動に抵抗感のある保護者も多く、総会参加率が低い。また、同窓会、後援会とも連携し、遠征費用の補助、寄付金の運用での図書の整備など、生徒にとってよりよい教育環境整備を継続している。 | 学校の様子を保護者、地域にアクセスしやすい形で発信し、共通理解を図る必要がある。学校、保護者、同窓会そして後援会が連携しやすい体制を構築していきたい。 |
| 図書・視聴覚 | 蔵書管理や配架構成の見直しなど、読書環境の改善に取り組んでいる。図書館便り等を発行し、新着図書の紹介等を行っており、令和７年度は、図書貸出数が年 1000 冊を超えた。生徒図書委員は、カウンター業務や蔵書管理、読書会の参加等よく活動している。<br>視聴覚分野では、この数年で放送機材がかなり更新されており、その運用もスムーズに行われてきた。今後さらに、視聴覚室の機材を利用しやすい環境に整える予定である。 | 専任司書がいないため、図書の管理や開館時間等に制限がある。教員が図書館業務を兼任するための、図書の取り扱いや専門ソフトの操作等、研修が必要である。<br>視聴覚分野では、一部放送設備や配線の老朽化が著しいため、根本的な改善が必要である。 |
| 保健厚生 | 校舎内外の清掃活動など、概ね良好である。一部の生徒にマナーを含む美化意識の欠如が見られ、更なる清掃の徹底を指導している。また、ゴミの分別をとおして、環境問題の改善に取り組む意識の定着を図る。<br>年２回の避難訓練では、全員が災害時に備えて避難経路を確認させ、安全確保の方法を指導している。 | 環境美化意識を高めるために、清掃の徹底を指導する必要がある。<br>避難訓練においては、出火元や被災箇所、不審者の位置等を、放送を聞いて確認し、安全・迅速に避難できるよう、指導の工夫を図る。 |
| 教育相談 | 前年度、教育相談室においてカウンセリングを受けた生徒数は、延べ　名と増加傾向にある。コミュニケーション能力に問題が見受けられる、ADHD・高機能自閉症等の疑いのある生徒が一定数いる。今後、早期発見と対応、スクールカウンセラー（SC）や外部関係機関等との連携を継続している。<br>また、 校内研修（年間２回）、 教育相談部の教員や担任、 保護者と SC、スクールソーシャルワーカーとの面談等をとおして生徒の困り事、対処の仕方について助言を求めてきた。 | 問題を抱えた生徒の早期発見と対応を図り、個々の生徒や保護者に対して共感的・多面的な対応が必要になる。生徒情報を共有化し、教員間の共通理解を図りながら、外部機関とも連携した体制を構築していく。 |
| 情報 | BYOD 端末の活用が定着化しつつある。更に Google や Classi、ClassiNOTE 等の研修等を実施し、ICT 機器の活用促進を図り、自習やグループ学習など、協働的な学習スタイルを推進してきた。Classi においては、学習トレーニングやポートフォリオを活用し、アウトプットや個別最適化学習を促した。全校生徒と保護者に対して Classi による連絡確認を強く呼びかけ、情報が滞りなく届くよう体制を整えている。教育情報ネットワークアカウントの管理と、Google Classroom、Classi の運用を円滑、効果的に行っている。 | Google コンテンツの有用的な活用方法について情報を収集し、教職員に研修等で伝えていく。また、Google や Classi 等の ICT で扱う個人情報等の管理、情報セキュリティ対策を整備する必要がある。 |
| 広報 | 本校の教育活動を近隣小中学生及び地域住民に発信することで、地域に開かれた学 | 少子化の影響で、小・中学校の児童・ |

| | | |
|---|---|---|
| | 校を目指して活動を行っている。企画運営を実施し、広報活動を刷新しながら、学校紹介を充実させることが目標である。学校説明会や学校公開に加え、広報紙（鹿苑だより）の発行、スクールガイドの作成や、頻繁なホームページの更新や充実といった日常的な活動もある。 | 生徒数が減少している。特に外部への広報活動を充実させる必要がある。そのために、広報活動をより効果的なものに見直しをしていきたい。 |
| 働き方改革 | ペーパーレス化、電子掲示板の活用、定時退勤日の設定、完全退勤時間の設定などを進めてきた。多くの職員が、時間を意識して業務にあたっており、在校時間を減らすことにつながってきている。同じ行事を同じ規模で実施しており、多様な業務にあたる職員の負担感が増加している側面も続いている。 | 業務軽減を図るために、働き方改革委員会による提言、改善案を全体で共有し、業務や行事、会議等の精選も課題である。 |

## ５　中期的目標

１　生徒の自主的活動を支援し、自分たちの学校を自分たちで築いていくという気概を持たせる。
２　学校行事等への積極的な参加を促すとともに、キャリアパスポートを活用し、学校生活を豊かに送れるようにする。
３　生徒が意欲を持って学習に取り組めるよう生徒の意識調査等を行い、学習に対する相談や進路相談活動の充実を図る。
４　生徒の体力の向上を図るため、継続的な事業を計画立案し、実施する。
５　国公立大学等への合格者数を増やすため、目的意識を明確にしつつ、学習努力を継続するための支援をする。
６　教員のワークライフバランスの見直しと、働きやすい職場環境の構築を図り、働き方改革を推進する。

## ６　本年度の重点目標

| 重点項目 | 重点目標 |
|---|---|
| ICT 活用と形成的評価による授業改善と学力向上 | ア　指導方法と評価方法の改善<br>イ　ICT 利用等での自律的な学習態度の育成<br>ウ　「令和８年度学校評価に係る生徒による授業評価」の授業満足度（KPI）3.5 以上の達成 |
| 進路指導の強化 | ア　進学目標の早期明確化と、目標実現への継続的支援<br>イ　望ましい職業観・勤労観育成の推進と資格取得 |
| 自他を大切にする心と自律心の育成 | ア　人権尊重、規律遵守の心の育成<br>イ　交通安全教育の充実、防災教育の充実、性教育の推進、薬物乱用防止教育の推進 |
| 特別活動・部活動の振興 | ア　ホームルーム・生徒会活動の活性化<br>イ　部活動の奨励と心身の健康の維持・増進<br>ウ　施設設備の効果的・効率的利用 |

別紙様式１（高）

| | |
|---|---|
| | エ　探究の授業やボランティアを通じた地域貢献への理解と参加 |
| 広報・生徒募集活動の充実 | ア　本校への理解促進を得るための積極的な情報収集と発信<br>イ　計画的、継続的な生徒募集活動の工夫 |
| コンプライアンス徹底と働き方改革の推進 | ア　「One IBARAKI」等の啓発での、教職員のコンプライアンス意識発揚<br>イ　教職員の負担軽減のための、積極的な業務見直し |
| ・学校組織運営の見直し<br>・デジタル環境の整備<br>・教育内容の充実 | ア　校務組織内の業務平準化推進<br>イ　講義室、執務室等、職場環境整備の推進<br>ウ　生徒による AI や 3D プリンタ等 ICT 機器活用促進<br>エ　探究活動等で関係機関との連携・協力体制の構築<br>オ　レポート作成、課題解決能力の強化<br>カ　分野横断的な授業と探究活動の推進<br>キ　授業を利用した、情報モラル・リテラシーの育成 |